

## 平成 27 年度 第 1 回遠野市史編さん委員会 会議録

日 時	平成 27 年 6 月 27 日（土）13：30～15：00		
場 所	遠野市立図書館 視聴覚ホール		
出席委員数	10 人中 9 人出席		
出席委員	赤坂 憲雄 大橋 進 熊谷 常正 斉藤 利男 佐々木剛之 菅原 伴耕 藤田 俊雄 松本 武則 山影 勝美		
欠席委員	兼平 賢治		
市長	本田 敏秋		
事務局	小向 孝子	遠野文化研究センター部長兼市史編さん室長	
	前川さおり	市史編さん室次長	
	糠森 千明	〃	主任
	熊谷 航	〃	主任

開会に先立って、委員に辞令を交付。

(進行：前川次長)

- 1 開会
- 2 市長挨拶
- 3 遠野市史編さん委員会の設置について

前川次長 この委員会は、会議資料 1 にある遠野市史編さん委員会条例第 1 条に基づき、市史編さんの基本方針及び計画、その他必要な事項を審議いただくため設置されたもの。

### (1) 委員紹介

(資料 2 の名簿順に自己紹介、その後職員紹介)

### (2) 委員長、副委員長選任

前川次長 遠野市史編さん委員会条例第 5 条に基づき、委員長、副委員長の選任を行う。議長不在のため、仮議長として小向部長を選任してよろしいか。  
(異議なしの声あり)

小向部長(仮議長) 条例には互選により委員長を選任すると定められているので、委員から推薦を願います。

菅原委員 事務局案に一任する。  
小向部長 事務局としては、委員長に大橋進委員をお願いしたい。いかがか。  
(異議なしの声あり)  
大橋委員が委員長に選任された。

大橋委員長が小向仮議長に代わり議長に就任。

大橋委員長 一言挨拶申し上げます。

『遠野市史』は昭和 43 年までの記述である。北上山地は列島改造論の枠外で自己の開発を図らなければならなかった。ある意味では、高速道路が通らなかったことが、遠野物語や民俗文化が残る要因となったのでは。交通革命の歴史の中での通史をどう作成するかが重要だと考える。

幸い、新編八戸市史という手本があり、これまでの市史の概念を覆す、とても市民が読みやすい叙述となっている。

事務局との連絡調整を図りながら、進めていきたい。

大橋委員長 副委員長の選任ですが、条例第 5 条第 3 項により、委員長の指名とあるので、私から指名させていただく。

副委員長には、赤坂憲雄委員を指名する。よろしいか。

(異議なしの声あり)

赤坂委員 一言挨拶申し上げます。

遠野文化研究センターを立ち上げてから 4 年になる。色々なことが見えてきた。歴史、文化を語り継いで研究する層が変わってきた。

大橋委員長には、遠野古事記を読む会の講師もしていただいているが、参加者に良くわかるように、下準備をされ勉強会をすすめており、参加者の中から次の世代が育つと感じている。

10 年間の市史編さん事業は人材育成が秘められたテーマだと思う。

#### 4 協議

##### (1) これまでの経緯と事業概要について (別紙資料 3)

(糠森主任 資料にもとづき説明)

大橋委員長 ご質問、意見を伺う。

赤坂委員 資料の散逸、途絶の懸念とあるが、収集した資料をきちんと保管、展示活用するシステムを作らなければならない。前回の市史編さん時の教訓を活かして、新しいシステムづくりの議論をしていただきたい。

熊谷委員 収集した資料だけでなく、個人所蔵も含めてどこにどんな資料があるか、きちんとしたデータを作成し、少なくとも市史に関わりのある資料のデータ保存を編さん事業の一つとして行って欲しい。

小向部長 赤坂委員、熊谷委員のおっしゃる通り。『遠野市史』『宮守村誌』には資料編がなく、どこにどのような資料があるのかの手がかりがなかった。そのため今回は、資料の所在確認とデータ整理をきちんとしていきたい。また、資料を広く活用していただけるような保存管理については、委員の皆さまのご意見を伺いながら方法を考えていきたい。

## (2) 遠野市史編さんの基本方針(案)について(別紙資料4)

(熊谷主任 資料にもとづき説明)

大橋委員長       ご質問、意見を伺う。

斉藤委員        遠野南部家文書や図書館博物館所蔵資料のほかに、調査を考えているか。青森県史編さんに係る調査の際に、中館家文書や寺社で持っている中世、近世文書も多くあることが分かった。そのような資料は調査対象となるのか。

藤田委員        遠野南部家の近世文書の目録作りを斉藤先生の研究で行った。南部家が所蔵する文書の中でも『御用留書』は藩政を知る重要な資料であるため、その調査から始めてはと考える。

小向部長        斉藤委員がおっしゃる通り、図書館博物館所蔵資料と斉藤先生の研究資料が今のところの手がかりである。中館文書や寺社で持っている文書があるというのは知っているが、調査をしていないのが実態。従って今後は、それらの調査も進めていきたいと考える。

また、南部家文書については、藤田委員がおっしゃったように『御用留書』があり、現在解読に着手している。それと併せて他の資料の調査を行い、どのようなものが資料編としてふさわしいか、委員のご意見を伺いながら進めていきたいと考える。

斉藤委員        編さんのお話をいただいた際に、『御用留書』の刊行を行うものと思っていたが、本日の資料で「資料編」は随時刊行とあるので、この機会に散逸してはまずい資料の調査もしてはいかがかという意味で質問をした。

赤坂委員        通史編のイメージはどのようなものか。前回の市史とは別に通史編を刊行するというのは、新しい資料が出てくることを前提にしていると思うが、通史編は1冊なのか、それとも数冊なのかということだいで違ってくると思う。

小向部長        現在考えているのは1冊。前回の編さん時以降、埋蔵文化財の発掘もされた。そのようなものも資料に盛り込みながら、また資料調査の結果も踏まえながら、1冊で遠野の歴史が分かるようなものを現在考えている。しかしながら、刊行が10年後であるため、今後の資料調査によっては、計画が変更となる可能性もある。

熊谷委員        ダイジェスト版のような感じか。

小向部長        手本にしたのは八戸市史の通史編である。写真も豊富でとても読みやすい。このような通史編を目指して進めたいと考えている。

大橋委員長       埋蔵文化財の調査も進み、中世、近世史も研究が進んでいるため、新たな解釈に書き換えが必要な箇所があるので、単なるダイジェスト版だけで良いのかというのは委員の皆さん感じているのでは。

熊谷委員        例えば、文書類だけではなく有形民俗文化財など含め関連資料を資料編として出すということにするか。通史編が原始・古代・中世・近世・近代・現代という4冊のシリーズとして出して、その他に資料編、現代編というような構成となるのか。どのようにお考えか。

- 小向部長            まずは、現代編をきちんとまとめること。同時並行で資料を解読すること。その後、通史編や資料編についてどのような形が良いかを委員の皆さまにご意見を伺いたいと考えている。
- 大橋委員            本日の会議では、通史の刊行数まで決められないので、今後皆さんと考えていきたい。
- 齊藤先生            通史は、現代編だけでなく、古代からの通史と解釈して良いのか。
- 小向部長            古代からの通史である。
- 佐々木委員        現代編は、前の市史から続く5巻目というものか。
- 小向部長            前の市史は市史としながら、『遠野市史』の現代編として刊行。
- 佐々木委員        これまでの4巻の続きではないということか。
- 小向部長            はい。
- 熊谷委員            人材育成の部分に積極的に市民参加を図るとあるが、市広報やホームページ、編さん室だよりなどを通じて情報発信をするというのはあるが、編さん委員会や編さん協力員会議を公開にしてはどうか。興味のある方はどなたでも聞ける場、常に市民に開かれた会議は、人材育成の種まきとして検討していただきたい。
- 小向部長            大変貴重な意見をいただいたので、前向きに検討させていただきたい。
- 菅原委員            伝承が難しいと思われるものは、デジタルの時代なので、映像に残すことも必要だと思う。
- 齊藤委員            普及活動に関することだが、市史講座等を開催し、どんな資料があるか市民に公開するのが良い。最近、他の自治体も予算削減によりそのような講座が減っている。
- 赤坂委員            市史編さん室は文化研究センター内の部署なので、センターの通常活動の一環として市史編さんの普及活動もしていかなければと考える。委員の先生方に市民講座の講師をお願いしたいし、自分達の歴史・アイデンティティーを作っていくのだという意識を醸成するために普及活動は必要。  
また、映像アーカイブ事業も編さん事業として必要と考える。

## (2) 平成27年度事業計画(案)について(別紙資料5)

(熊谷主任 資料にもとづき説明)

- 大橋委員長        ご質問、意見を伺う。
- 小向部長            「御用留書」についてだが、市内の方々に協力をいただき、解読を始めたところである。この解読の作業量、日数が今後の刊行スケジュールに関係してくると思われる。
- 藤田委員            遠野南部家の家臣の名前を記録しているのはあるのか。
- 大橋委員長        盛岡藩と異なり、遠野南部家家臣団の名前をきちんと記録しているのはないため、引用している資料を調べなおす必要がある。
- 熊谷委員            民俗編はH28年度開始の計画だが、先ほど、菅原委員から発言があったように、民俗関係の緊急を要するような調査はないのか。ある場合は、遠野文化研究センターで対応していただけるか。
- 小向部長            現在も遠野文化研究センター調査研究課において、石碑調査等を行って

いる。緊急に調査を必要とするものは、調査研究課で調査を行いたい。

熊谷委員

民俗文化財は有形であれ無形であれ、時間とともにどんどん変わっていく。古い物から調査をしていくのが必要。

小向部長

後で委員の皆さまにご意見を伺おうと思っていたが、民俗編に係り、どのような調査をしたら良いか模索している。北上市の年中行事調査の報告書には、クリスマス等の掲載もあった。その理由は昔の年中行事を調査しようとしたら、社会の変化に伴い年中行事も大きく変わっており、現在の行事と数十年前の行事を両方掲載したというものであった。遠野でも同じと考えられる。従って、民俗編の調査をどのように行うのか今後委員の皆さまのご意見を伺いながら考えていきたい。

赤坂委員

民俗編は現代編と重なる部分が出てくる。H28年度からの開始だが、議論は今年度から始めたい。

大橋委員長

その他、何かございますか。  
(なしの声あり)

## 6 閉会（前川次長）